

都電荒川線がグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞

東京都交通局が運営する都電荒川線（愛称「東京さくらトラム」）が、このたび、「2020年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞いたしました。

今回の受賞を糧に、地元をはじめ多くの方々に愛されるよう、今後も快適で利用しやすいサービスの提供に努めてまいります。



LONG
LIFE
DESIGN
2020



■「グッドデザイン・ロングライフデザイン賞」とは

- 「これから生まれるデザインの手本となりうる、時代を超えてスタンダードであり続ける商品・建築・コンテンツ・サービスなど」が表彰対象。
- 「単に『長く残っている』ことを讃えるのではなく、暮らしの中で人々に愛され、これからも変わらずに存在し続けてほしいデザインと、そのデザインを生み出した人々を顕彰すること」が目的とされています。

〔「ロングライフデザイン賞審査委員会」による審査コメント〕

12キロの沿線上には「早稲田」「面影橋」「学習院」「鬼子母神」「飛鳥山」など、文教地区や江戸情緒溢れる名所があり、長きにわたり地元の人々の足であると同時に観光客を運んできました。ドラマの舞台にもなるくらい、都電の走る風景こそが街のデザインとなっています。

路面電車の良さは交通渋滞とは無縁で時間に正確なこと。また停留場が地上にあるため乗り降りが楽で高齢者にも優しいこと。荒川線ではレトロな車体や線路沿いにバラを植えるなど、景観も大切にされています。

様々な人生のドラマに寄り添い、街や人々の成長を見守ってきたであろう都電は、多くの人たちの温かな記憶として残っているのではないのでしょうか。

日々進化する東京にあって、都電の走る風景が普遍的であってほしいと願うと同時に、コンパクトで簡便な移動ツールは、東京に限らずこれからの時代にこそ必要とされる未来性からも応援したいものです。